

# コミネット宝木だより

## 「コミュニティの充実・身近な問題解決を目指して」

自然環境の移り変わりを記録しました。 山陰道予定地上空です。



富吉上空から鷲峰山を望む



下光元上空から日本海を望む

一年間を振り返って

会長 水石 裕士

宝木地区住民の皆様には、宝木地区まちづくり協議会の事業運営等につきまして、ご理解ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、本協議会では平成二十二年総会で、前年度に実施した住民アンケート等の結果を踏まえ、地域の課題や問題解決への取り組みを具体的に定めたコミュニティ計画が承認されました。その後、事業立案・運営等を掌る五つの小委員会が設立され、今現在、行政、区長会、各種団体、公民館、地域住民等のご協力を得て全力で取り組んでいるところであります。その取り組みの幾つかを紹介いたします。

**生活環境**では、上光への生鮮食品等の軽トラマーケット巡回。地産地消の一環として「コミネットふれあい市」の開催。

**自然環境**では、河内川等桜並木の整備のための検討・調査。

猛暑のなかでの地区公民館花壇づくり(鳥取市プラントアンクル優秀賞受賞)。

**子どもを育む環境**では、地区公民館との共催による「宝木っ子まつり」、「貝がら節まつり」、「地区文化祭」の開催。

**防災防犯対策**では、防災マップづくり、防災訓練、自主防炎会の強化と連絡網の確立のための検討。

**活性化対策**では、高校生等若者の地域参加啓発のための宝木駅前ピラ配り、地域への愛着醸成のための「平成元年生まれ同窓会」の開催などがあげられます。

設立して二年五カ月が経過しました。暗中模索の状態からの出発ではありましたが、多くの方々のご協力を得て、一歩一歩前進し、今日に至っています。来年度も夢と希望、そして実行力をもって「やすらぐ、住みよい、元気なまち宝木」にしてまいります。今後ともよろしくお願い致します。

一人ひとりの力を合わせて  
今、私たちにできることを

生活環境小委員会

本部享司

この委員会では二つの部落の買い物難民が議題に上りました。

◆上光 酒津の大坪さんが来てくれないか。年寄りが困っています。

◆宝木 宝木の中心に位置する旧三枚商店で店とサロンが併設したものが開けないか。

上光については大坪商店の計らいで毎週木曜日に来ていただくようになりました。

宝木についてはトイレ、厨房店の設備などに多額の資金が必要ということでご前へ進んでいません。「宝木を考える会」など宝木部落による組織作りが急がれます。

委員会を重ねるなか、正月を迎

える頃「コミ

ネットふれあい市」を実施したらどうかという案が出されました。これが宝木の商店づくりの下地になるかもしれないという期待が大いにありました。

・十二月二十六日(日) 九時

・宝木地区公民館駐車場

・出店者 上光ふれあい市 夏

ヶ谷(水耕栽培) 常松(みど

り農産) 富吉

(手崎) 谷口)

宝木(河内) 本

部) 水尻(山

本) 奥沢見(環

境保全組合)

プロから素人ま

で様々で面白い

取り合わせとな

りました。豚汁も振舞われ、八

十杯ほど食べていただき、大成

功でした。

また、反省会において「生こみ



のリサイクル」に取り組もうと意見ができました。家庭から出る生ゴミを可燃処理しないで液肥として土に返すものです。方法は今後研究し、宝木地区に適したものを選択していきたいと思えます。その時は、是非協力をお願いいたします

自然環境小委員会の

経過と希望

米田克彦

『わがまち 宝木』(平成十七年二月十九日発行)に、安藤博氏による河川環境管理財団

応募論文『幻の

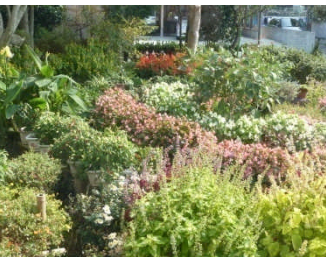
桜土手に生命

を通わす夢を

追う』が載って

います。それに

よると、昭和二



年当時の宝木小学校長安藤重平氏と高学年の子供たちが、河内川の土手約一、〇〇〇

メートルに桜の木を手植えしたのですが、昭和三十四年伊勢湾台風による土手の決壊とその修復工事により、三十年余り立派に成長し見事な花を咲かせていた桜の木は一本も見られなくなっていました。六十歳以上の人たちには往時の様子がしっかりと頭の中に残っていることと思えます。

その後幾度となく、桜土手復元の願いは起こったが、河川法等の障害により諦めなければなりませんでした。

その願いを当小委員会が受け継ぎました。また、時代の流れとともに河川環境に対する配慮と期待が大きくなり、平成九年河川環境の整備と保全を目的に加えた河川法に変わりました。これで少しは望みが叶えられるのではないかと思います。

実現するためには、皆様の理解と応援が大きな力となります。課題は山積みですが、夢を実現したいと強く願っています。



子どもを育む環境小委員会

山本 寿美子

公民館青少年育成部、集落  
ごども会と一緒に数回の実行  
委員会を経て、「宝木っ子まつ  
り」、「貝がら節まつり参加」、  
「文化祭」の各事業を実施す  
ることが出来ました。どの事

業でも親子の絆、地域の人の  
ふれあい、お世話をしてくださ  
る人への感謝の気持ちをいた  
く様子に確かな手ごたえが感  
じられ、有意義な一年間であっ  
たと思います。

親子、友達と一緒に作った砂  
像に感動し、地曳網の大漁に歓  
声を上げ、汗びっしょりで踊っ  
た貝がら節、どの顔も真剣で力



一杯がんば  
った。文化祭  
ではイベン  
トを通じて  
普段とは一  
味異なった  
ふれあいの  
場となった  
と思います。



欲を言えばも  
っと多くの子  
ども達の参加  
がほしかった  
との思いがあ  
り、今後の課  
題です。

防犯防災対策委員会

吉村文夫

取組む目標計画は、

- ◆ 独居老人マップづくり
  - ◆ 独居老人見守り組織づくり
  - ◆ 高齢者運営によるミニディ
  - ◆ 防災マップづくり、防災訓練
  - ◆ 自主防災会の強化と連絡網
- の確立の五項目です。

防災マップと福祉マップづ  
くりは既に各集落で実施され  
ておりますが、個人情報をごこ  
まで共有できるか課題も多々  
あります。

危険から住民ならびに地域  
をどう守るか、自助、共助、公  
助の連携を考えながら啓発活  
動を基本に進めて参りたいと

思います。

一方、防災教育は子どもの時  
からという視点に立ち、「楽し  
みながら、自分たちの住む町を  
歩き、観察することにより災害  
への備えや身近な危険に対し  
気付きを得る」。

活動として、防災探検まちあ  
るき、安全マップづくりなど、  
住民のみなさんとの協働活動  
を進めていきたいと思ってい  
ます。

この度の東北関東大震災を  
教訓に地域の結集を図るには  
住民のみなさんのご協力と参  
加行動が欠かせません。

活性化対策小委員会

北村公

活動の柱のひとつ、宝木駅で  
のピラ配り。「他に類を見ない  
コネット宝木ならではの活  
動」と、反省会での委員の意見。

八名の委員が当番を組み、全員  
体制で高校生を中心とした若  
ものへ情報を発信し続けまし  
た。

結果、

◆ コミュニケーションがとれ  
るようになった。

◆ あいさつを交わすようにな  
った

◆ 励ましの声かけがあった。

◆ 知ってもらえた。等々嬉しい  
意見がでました。

二つ目の活動、平成元年生ま  
れを対象とした同窓会の開催  
は、若者の地域活動へ繋がる事  
業。積み重ねが大切。と、二つ

の事業と  
も継続の  
大切さを  
認識しま  
した。

この活  
動を長く



続ける事  
で、地域  
に愛着を  
持つ成人  
が育つよ  
う願って  
います。

# 「輝く 互助のむら 奥沢見」

むら起こしはむら残し

人の絆が部落の宝

水田 允

部落を訪ねて来た人から「奥沢見は日本の原風景のようですね。」と言われたことがある。

タイムスリップして、どこか昔の農村に来たようだという意味であろう。言われてみると昔のままの田や川、山裾に点在する農家、草を焼く煙でもたなびいているとゆっくりに時が流れる農村の原風景そのものであろう。

そう言えば奥沢見では、今も昔のように暖かい心を通わせながら生活がさされている。

戦前、どの集落でも「結（ゆい）」という互助の繋がりが在ったが、本地区には今もその互助の形が農作業の助け合いや慶事弔事の遣り取り

等に残っている。先般も結婚した二人を村中で祝賀会を行ったし、昨秋誕生した赤ちゃんに村でお祝いを贈ったりしている。

そしてまた、近年、部落の活性に関わる住民活動が色々計画されるようになった。その一つが部落納涼祭。十五年続き、帰郷客も加わり年々賑わいを見せている。

四年前から行っている環境保全活動事業。

休耕田や川の保全管理を全戸参加で行い、休耕田を活用して部落でそばを栽培し、村中で年越しそばを味わった。奥沢見の代名詞、ホタルの里づくりもこの事業の一つである。

そして今年からスタートする中山間地活性化事業がある。市の支援を受け、休耕



田を活用して奥沢見特産「清流ホンモロコ」養殖事業を立ち上げる。この他にも、千二百年の歴史ある神社を大切に譲ろうと毎年の大しめ縄を作ったり、初詣の篝火を奉納したりもしている。

最後に六年前になるが三年がかりで部落史を編集し、部落の歴史を本にまとめ各家庭と部落の宝として活用している。等々 どれとて住民の村を思

う心・人を思う心の温もりが原動力となり、部落が一体となった取り組みである。そして『絆』



という奥沢見自慢の宝があつてくらしが支えられてい



## あとがき

平成二十二年度は、コミネット宝木にとって活動元年であります。住民アンケート結果を五つの委員会、話し合い・行動しました。

来年度は、東北関東大震災を身近な問題として捉える必要があります。宝木地区を住民が一体となり自分たちで創り・守っていききたいものです。

## コミネットふれあい市開催のお知らせ 第2弾 春の市

期 日 5月1日(日) 午前9時より  
場 所 宝木地区公民館  
出 品 野菜を中心としたフリーマーケット

出店者・買い物客

多くの皆様のご来場お待ちしております